

写真1 / 新ホームまで約3分の貼り紙 (東口)



写真2 / お役御免の旧ホームエスカレーター



## 電業特報・プチ特集 / 20.08

# 誕生から92年目のJR飯田橋駅が思い切り大変身!! なんとカーブがなくなりホームがまっすぐになった

～牛込駅のあった場所に回帰した飯田橋駅～

### ☆カーブのど真ん中にあった旧飯田橋駅ホーム

7月最終週の本紙「現場風景・あかり光景」欄で少し触れた、JR飯田橋駅の新ホーム供用開始（今年7月12日から供用開始）の話題。その際には詳細な続編を近々お届けする旨、末尾に書いたものの、機会を逸したまままでいた。今回はその続編（詳細版）を、本欄にてお届けしたい。

\*

JR飯田橋駅が設置されたのは、前回もご説明したように1928（昭和3）年のことだ。飯田橋駅の前身は1894（明治27）年設置の牛込駅（甲武鉄道）で、今よりも200mほど市ヶ谷寄りの位置にあった。

その後、甲武鉄道が官営に移行するなど紆余曲折があり、やがて隣接する飯田町駅（現在の水道橋寄り）



写真3 / 旧ホーム途中にも「200m移動」の貼り紙

と牛込駅が統合され「飯田橋駅」に改名。位置も中をとって、少し水道橋寄りの位置に移ることになった。

今年7月11日まで使用されていた、この中をとった飯田橋駅ホームの位置が、実は難物だった。

市ヶ谷駅の側からみると、時計り（右回り）のようなカーブを描いている場所の真っただ中で、その曲線半径は約300mというから、改めて凄いカーブだったことがわかる。筆者も幾度となく恐怖を覚えたことがあるが、車両とホームのいちばん広い隙間は33cmもあった。おまけに段差も20cm近くあり、10件以上の転落事故のある年も珍しくなかったとか。

今年7月12日から供用開始された新ホームは市ヶ谷寄りに200m移ったので、つまりはかつての牛込駅時代とほぼ同じ場所に「戻った」ことになる。

改札口でいうと水道橋寄りが東口で、市ヶ谷寄りが西口。この名称は今後も変わらないようだが、駅ホームが西口側（市ヶ谷寄り）に延びたことで、東口（水道橋寄り）の改札から入ると、従来のホームを端から端まで歩いて、ようやく新ホームに到達することになる。

そのため東口の改札には、新ホームまでの所要時間は改札を入れてから「約3分」という説明書きのボードが貼られている。新ホームができたことを知らずに、以前と同じ調子で乗ろうとすると、乗ろうとしていた電車の間に合わない事態も考えられるのだ。